

通電火災にご注意ください

近年、毎年のように大雨による洪水や土砂災害などの水害が発生しています。これらの水害により長時間の停電が発生した場合、水没した電気機器等が再通電した際、火災が発生するおそれがありますので、以下の点にご注意ください。

「通電火災」とは、停電から復旧することによって発生する火災のことをいいます。通電火災は、阪神淡路大震災、東日本大震災において火災による二次災害が頻繁に発生したことから、その要因として注目されました。

最近では、毎年のように発生し甚大な被害を与えている台風や豪雨による水害により停電からの復旧によって通電火災が発生しています。



火災に至る主な経緯

1. 電気ストーブ、アイロン等の電気機器の電源が入ったまま再通電したことにより、接していた可燃物を再過熱し出火。
2. 電線、引込線、屋内配線が損傷した状態で通電し、配線の短絡（ショート）や樹木の接触による地絡（漏電）によって、火花が発生し出火。
3. 分電盤、家電等の電気機器の基盤が水に濡れたことによってできた想定外の電気回路に通電したことにより、短絡やトラッキングが発生し出火。



○通電火災は防げます！

出火のメカニズムを理解して適切な対策をとることができれば、通電火災の発生を防ぐことができます。

【対策1】再通電しても出火危険がない状態にしておく！

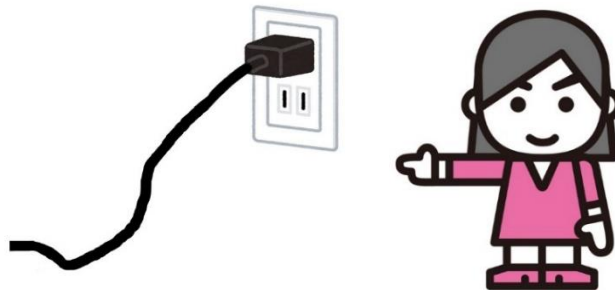
○停電時に家を空ける際には、ブレーカーを落としましょう。

停電中は家電等の電気機器のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。



【対策2】再通電させる前に家の周囲や室内を確認する！

○家の外壁や周囲の状態から、電線や引込線の断線や損傷がないか確認し、異常があれば電気業者に連絡しましょう。



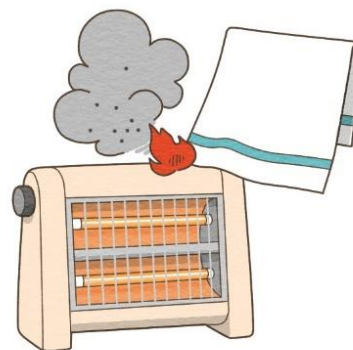
【対策3】再通電させる前に電気機器を確認する！

○電気ストーブ、アイロン等の電気機器の電源が入ったままになっていないか確認しましょう。

○電気機器の周囲を整頓し、燃えやすい物がないかよく確認し、異常があれば使用しないようにしましょう。

○電気機器の本体や配線に損傷がないかよく確認し、異常があれば使用しないようにしましょう。

○一度水に浸かってしまった電気機器は、乾燥させたとしても内部の配線や基盤が故障している可能性があり、通電させると出火の危険がありますので、使用せずにメーカーにご相談ください。



豪雨に伴う通電火災対策

1 水害により停電が発生した場合は、以下の対応を図るようにしてください。

- (1) 停電中は電気機器のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから離脱しましょう。
- (2) 停電中に自宅等を離れる際はブレーカーを落としましょう。
- (3) 再通電時には、漏水等により電気機器等が破損していないか、配線やコードが損傷していないか、燃えやすいものが近くにないかなど、十分に安全を確認してから電気機器を使用しましょう。
- (4) 建物や電気機器に外見上の損傷がなくとも、壁内配線の損傷や電気機器内部の故障により、再通電から長時間経過した後、火災に至る場合があるため、煙の発生等の異常を発見した際は直ちにブレーカーを落とし、消防機関に連絡しましょう。

【参考】消防庁ホームページ（通電火災）

www.fdma.go.jp/pressrelease/info/items/200707_yobou_1.pdf（新しいウインドウが開きます）

こちらも参考にして、通電火災に注意しましょう

ご参考 地震火災～あなたの命を守るために出来ること～（総務省消防庁 HP）

[地震火災～あなたの命を守るために出来る事～](#) （外部リンク）